参考資料4

米に関するマンスリーレポート

（平成23年６月６日公表）

農林水産省

【お知らせ】
※　今号より、「Ⅱ　米取引関係者の判断」(P.19～)を掲載します。これは、米取引関係者に対して需給動向や価格水準などのアンケートを実施し、その結果をＤＩとして紹介したものです(前月との比較は次号から掲載します。)。

【本資料の目的】

「米に関するマンスリーレポート」は、米に関する価格動向や需給動向に関するデータを集約・整理し、毎月定期的に公表することによって、需給動向を適切に反映した米取引に資することを目的とする。

【利用上の注意】

１．「米に関するマンスリーレポート」は、今後、必要に応じて項目の追加・削除などの内容を変更することがあり得る。

２．本レポートは、原則として公表２営業日前までの公表資料を反映している。

３．本資料に関する問い合わせ先

総合食料局食糧部計画課
担当者：山田、若杉
代表：03-3502-8111（内線4200）
ダイヤルイン：03-3591-7889
FAX：03-3508-2467

目　次

Ⅰ　米に関する各種指標
１．集出荷段階の動向
（１）相対取引価格・数量・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１
① 相対取引価格（産地銘柄別、平成23年４月）
② 相対取引価格の推移（主な産地銘柄別、平成22年産米）
③ 相対取引価格（年産別）
④ 相対取引数量（累積数量、産地銘柄別、平成23年４月）
（２）民間在庫（出荷段階）の推移・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・４
（３）相対取引基準価格(全農)の推移・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・５
（４）産地銘柄別概算金の設定状況・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・６
① 全農系統の22年産の概算金
② 全集連系統の22年産の概算金
（５）（株）加工用米取引センターの取引結果・・・・・・・・・・・・・・・・・６
２．卸売段階の動向
（１）民間在庫（販売段階）の推移・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・７
（２）業者間取引の状況・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・８
① 日本コメ市場（随時取引の結果）
② 日本コメ市場・クリスタルライス（取引会の結果）
３．小売・消費段階の動向
（１）小売価格・消費者物価の推移・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・９
① 消費者物価指数の推移
② 小売物価統計による推移
③ 小売価格の推移（ＰＯＳデータ）
（２）購入数量の推移（家計調査）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１１
４．生産段階の動向
（１）国産米の作況・収穫量（平成22年産の水稲の収穫量）・・・・・・・・・１２
（２）民間在庫（生産段階）の推移・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１２
（３）水稲うるち玄米（22年産米）の検査結果・・・・・・・・・・・・・・・１３
（４）加工用米及び新規需要米の取組状況　・・・・・・・・・・・・・・・・１３
① 加工用米の集荷実績数量
② 新規需要米の用途別認定状況
５．備蓄米及びMA米の動向
（１）国内産備蓄米の売買数量及び在庫数量　・・・・・・・・・・・・・・・１５
① 国内産備蓄米の政府買入数量(23年産米)
② 国内産備蓄米の売渡数量
③ 国内産備蓄米の在庫数量
（２）ＭＡ米（一般・ＳＢＳ）の動向・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１７
① ＭＡ米の輸入数量（輸入先国別及び輸入方式別）
② 一般輸入米（加工原材料用）の販売状況(平成22年度)
③ ＳＢＳ米の販売状況(平成22年度)

Ⅱ　米取引関係者の判断（平成23年５月）
１．国内の主食用米の需給及び価格動向に関する判断（全体）・・・・・・・１９
２．自社の取引状況に対する判断（業態毎）・・・・・・・・・・・・・・・２０

Ⅰ　米に関する各種指標

1. 集出荷段階の動向

（１）相対取引価格・数量

①　相対取引価格（平成22年産米の主な産地品種銘柄別、平成23年４月）（速報）

（単位：円/玄米60kg）

産地		品種銘柄	（地域区分）	23年4月 ①	【参考】 23年3月 ②	対前月比 ①/②	22年4月 (21年産) ③	対前年同期比 ①/③
北海道	北海道	きらら397		11,807	11,327	(104%)	13,184	(90%)
	北海道	ななつぼし		11,949	11,590	(103%)	13,189	(91%)
東北	青森	つがるロマン		11,507	11,409	(101%)	13,625	(84%)
	青森	まっしぐら		11,257	10,830	(104%)	13,629	(83%)
	岩手	ひとめぼれ		11,925	12,292	(97%)	14,602	(82%)
	岩手	あきたこまち		11,518	12,350	(93%)	13,627	(85%)
	宮城	ひとめぼれ		12,123	12,183	(100%)	14,627	(83%)
	宮城	ササニシキ		―	12,227	―	14,858	―
	秋田	あきたこまち		12,283	12,287	(100%)	14,626	(84%)
	山形	はえぬき		11,852	11,583	(102%)	13,895	(85%)
	福島	コシヒカリ	会津	―	―	―	14,769	―
	福島	コシヒカリ	中通り	12,510	12,675	(99%)	14,057	(89%)
	福島	コシヒカリ	浜通り	―	―	―	14,051	―
	福島	ひとめぼれ		―	―	―	13,783	―
関東・東山	茨城	コシヒカリ		―	13,190	―	14,337	―
	栃木	コシヒカリ		12,374	12,544	(99%)	14,248	(87%)
	埼玉	彩のかがやき		―	―	―	―	―
	千葉	コシヒカリ		―	12,662	―	14,184	―
	長野	コシヒカリ		―	―	―	14,711	―
北陸	新潟	コシヒカリ	一般	―	16,363	―	16,163	―
	新潟	コシヒカリ	魚沼	―	21,625	―	22,578	―
	新潟	コシヒカリ	佐渡	―	16,844	―	16,542	―
	新潟	コシヒカリ	岩船	―	―	―	16,473	―
	富山	コシヒカリ		13,510	13,837	(98%)	14,953	(90%)
	石川	コシヒカリ		―	13,483	―	14,595	―
	福井	コシヒカリ		―	―	―	14,682	―
	福井	ハナエチゼン		12,027	―	―	13,834	(87%)
東海・近畿	三重	コシヒカリ	一般	―	―	―	14,170	―
	滋賀	コシヒカリ		―	12,988	―	13,881	―
	滋賀	キヌヒカリ		―	11,384	―	13,787	―
	兵庫	コシヒカリ		―	13,470	―	―	―
中国・四国	鳥取	コシヒカリ		―	―	―	14,016	―
	島根	コシヒカリ		―	12,938	―	14,454	―
	広島	コシヒカリ		11,854	12,686	(93%)	―	―
	山口	コシヒカリ		―	12,695	―	14,456	―
	徳島	コシヒカリ		―	―	―	―	―
	香川	ヒノヒカリ		11,567	11,380	(102%)	13,715	(84%)
	高知	コシヒカリ		―	―	―	―	―
九州	福岡	ヒノヒカリ		12,350	12,203	(101%)	14,317	(86%)
	佐賀	夢しずく		11,918	11,923	(100%)	―	―
	熊本	ヒノヒカリ		―	12,255	―	13,883	―
	大分	ヒノヒカリ		―	―	―	―	―
	宮崎	コシヒカリ		―	―	―	―	―
	鹿児島	ヒノヒカリ		―	―	―	―	―
全銘柄平均価格				12,760	12,750	(100%)	14,383	(89%)

資料：農林水産省「米穀の取引に関する報告」

注1：相対取引価格は、ア 全国出荷団体、イ 年間の玄米仕入数量が5,000トン以上の道県出荷団体等、ウ 年間の直接販売数量が5,000トン以上の出荷業者と卸売業者等の主食用の相対取引契約（数量と価格が決定した時点を基準としている。）の価格（運賃、包装代、消費税相当額を含む1等米の価格。）であり、その契約数量を用いて加重平均した価格である。その際、新潟、長野、静岡以東（東日本）の産地品種銘柄については受渡地を東日本としているものを、富山、岐阜、愛知以西（西日本）の産地品種銘柄については受渡地を西日本としているものを加重平均している。

2：また、相対取引価格は、個々の契約数量に応じて設定される大口割引等の割引などが適用された価格であり、実際の引取状況に応じて等級及び付加価値等（栽培方法等）の価格調整が行われることがある。

3：産地品種銘柄は、ア 21年産の公表対象産地品種銘柄が存在した道府県における当該産地品種銘柄、又はイ ア以外の道府県における21年産の検査数量の最も多かった1品種銘柄のうち、21年産の農産物検査受検数量原則15,000トン以上のものであり、月1,000トン以上の取引があったものである。

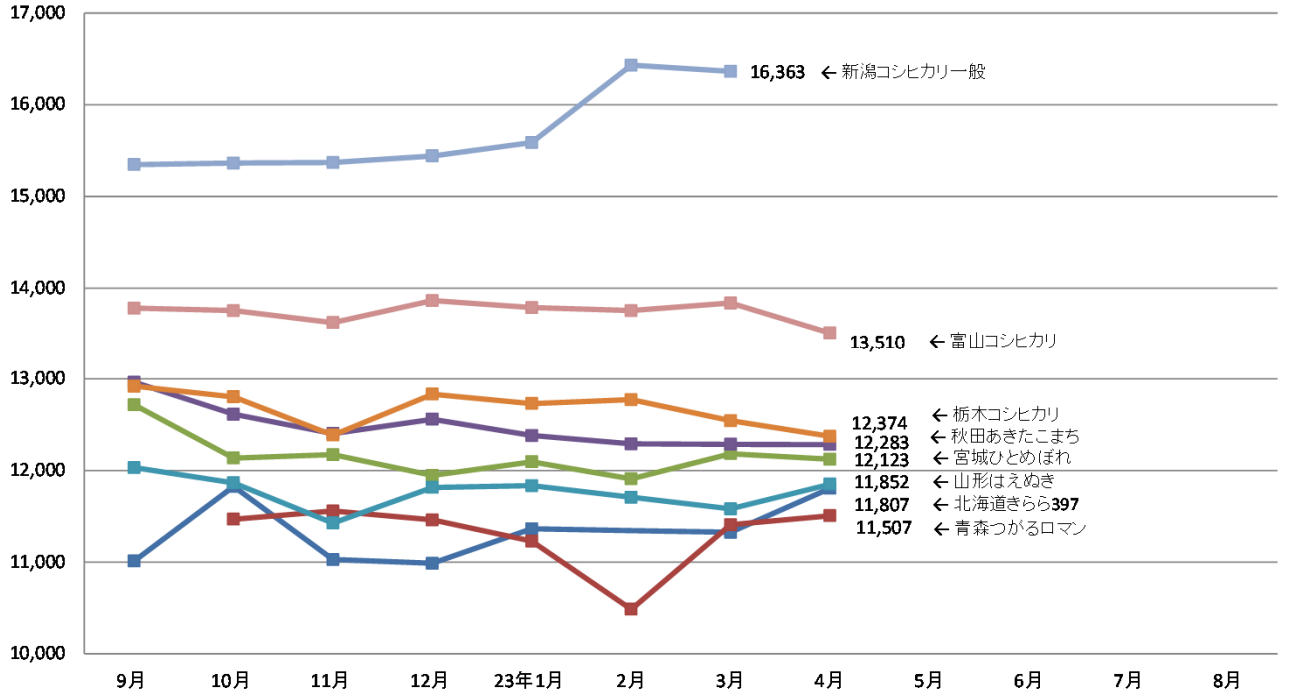
4：全銘柄平均価格は、報告対象産地品種銘柄ごとの前年産検査数量ウェイトで加重平均した価格である。

5：22年4月は21年産の価格である。

6：22年産については速報値である。

②　相対取引価格の推移（主な産地銘柄別、平成22年産米）

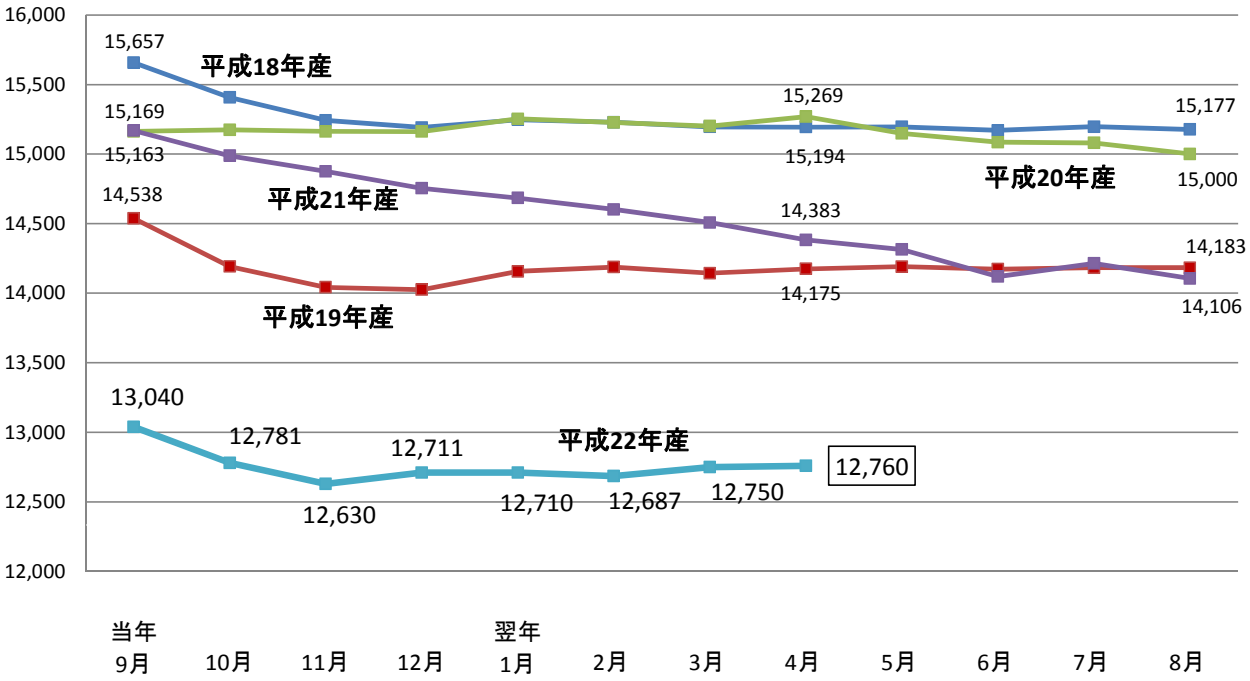
（単位：円/玄米60kg）



資料：農林水産省「米穀の取引に関する報告」
注1：相対取引価格に関する留意点については、①の注釈を参照。
2：月間の取引量が1,000トン未満となった産地銘柄については、当該月の価格は上表に掲載していない。

③　相対取引価格（年産別）

（単位：円/玄米60kg）



資料：農林水産省「米穀の取引に関する報告」
注：相対取引価格に関する留意点については、①の注釈を参照。

④ 相対取引数量

（累積数量、平成22年産米の主な産地品種銘柄別、平成23年４月）（速報）

（単位：玄米トン）

産地		品種銘柄	（地域区分）	22年産（23年4月まで）①	（前年比）①/②	（前々年比）①/③	21年産（22年4月まで）②	20年産（21年4月まで）③
北海道	北海道	きらら397		104,797	(127%)	(73%)	82,672	143,356
	北海道	ななつぼし		126,805	(142%)	(93%)	89,586	136,887
東北	青森	つがるロマン		38,921	(88%)	(51%)	44,210	76,655
	青森	まっしぐら		34,349	(87%)	(79%)	39,401	43,501
	岩手	ひとめぼれ		96,529	(171%)	(83%)	56,476	116,173
	岩手	あきたこまち		26,356	(182%)	(85%)	14,444	31,162
	宮城	ひとめぼれ		130,955	(195%)	(79%)	67,095	166,357
	宮城	ササニシキ		12,226	(168%)	(81%)	7,285	15,181
	秋田	あきたこまち		188,960	(148%)	(77%)	127,442	245,712
	山形	はえぬき		107,862	(118%)	(79%)	91,542	135,909
	福島	コシヒカリ	会津	35,676	(154%)	(111%)	23,147	32,163
	福島	コシヒカリ	中通り	31,424	(78%)	(86%)	40,152	36,343
	福島	コシヒカリ	浜通り	16,224	(148%)	(98%)	10,932	16,479
	福島	ひとめぼれ		42,729	(116%)	(92%)	36,726	46,512
関東・東山	茨城	コシヒカリ		47,823	(124%)	(97%)	38,716	49,281
	栃木	コシヒカリ		109,244	(120%)	(100%)	90,685	108,928
	埼玉	彩のかがやき		2,451	(29%)	(27%)	8,593	8,958
	千葉	コシヒカリ		43,422	(123%)	(84%)	35,331	51,540
	長野	コシヒカリ		57,668	(158%)	(94%)	36,561	61,380
北陸	新潟	コシヒカリ	一般	131,086	(134%)	(85%)	97,612	154,960
	新潟	コシヒカリ	魚沼	18,561	(117%)	(80%)	15,824	23,272
	新潟	コシヒカリ	佐渡	15,848	(118%)	(84%)	13,378	18,792
	新潟	コシヒカリ	岩船	13,199	(118%)	(83%)	11,232	15,810
	富山	コシヒカリ		97,439	(178%)	(101%)	54,669	96,298
	石川	コシヒカリ		28,403	(235%)	(119%)	12,089	23,906
	福井	コシヒカリ		25,907	(104%)	(71%)	24,890	36,294
	福井	ハナエチゼン		24,347	(122%)	(107%)	20,023	22,823
東海・近畿	三重	コシヒカリ	一般	16,926	(110%)	(90%)	15,328	18,709
	滋賀	コシヒカリ		26,606	(119%)	(101%)	22,274	26,368
	滋賀	キヌヒカリ		13,502	(108%)	(97%)	12,519	13,919
	兵庫	コシヒカリ		14,519	(159%)	(97%)	9,121	15,034
中国・四国	鳥取	コシヒカリ		10,088	(93%)	(81%)	10,830	12,381
	島根	コシヒカリ		20,636	(166%)	(98%)	12,449	21,072
	広島	コシヒカリ		19,388	(127%)	(91%)	15,211	21,393
	山口	コシヒカリ		14,668	(198%)	(82%)	7,408	17,916
	徳島	コシヒカリ		10,507	(91%)	(79%)	11,511	13,313
	香川	ヒノヒカリ		9,995	(68%)	(62%)	14,669	16,137
	高知	コシヒカリ		5,942	(85%)	(64%)	7,027	9,217
九州	福岡	ヒノヒカリ		16,917	(106%)	(67%)	15,917	25,196
	佐賀	夢しずく		11,471	(104%)	(92%)	11,039	12,411
	熊本	ヒノヒカリ		4,784	(57%)	(82%)	8,456	5,819
	大分	ヒノヒカリ		9,351	(83%)	(81%)	11,199	11,615
	宮崎	コシヒカリ		7,597	(63%)	(107%)	11,974	7,132
	鹿児島	ヒノヒカリ		2,228	(41%)	(58%)	5,402	3,851
全銘柄合計契約数量				2,270,005	(126%)	(82%)	1,799,259	2,754,008

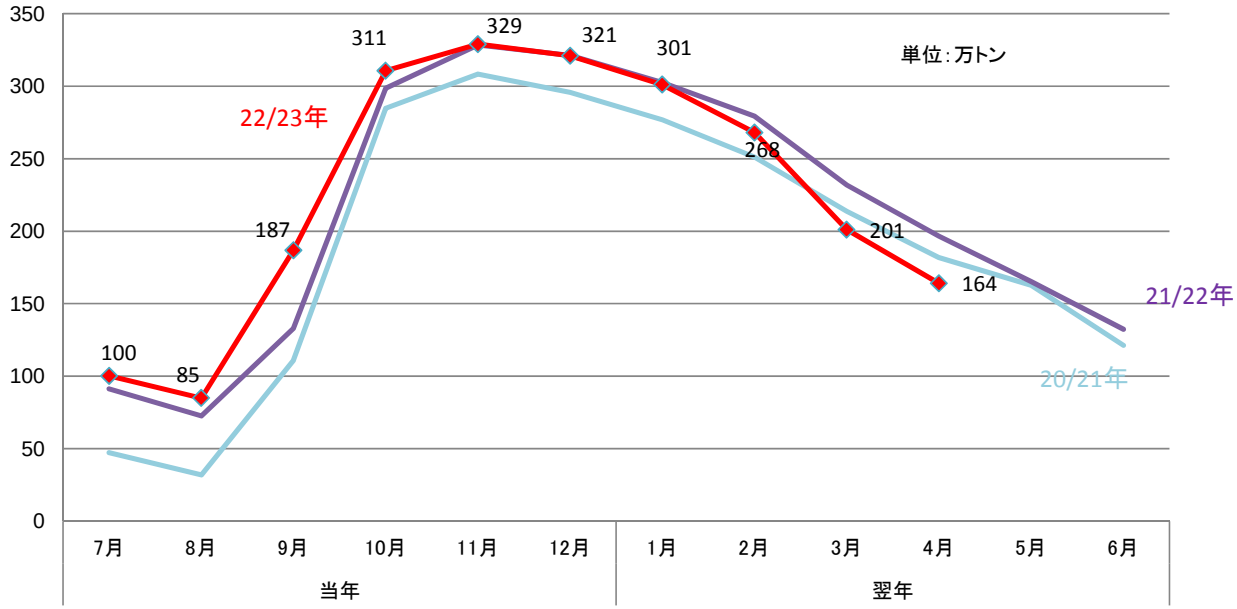
資料：農林水産省「米穀の取引に関する報告」

注1：相対取引数量は、ア 全国団体、イ 年間の玄米仕入数量が5,000トン以上の道県出荷団体等、ウ 年間の直接販売数量が5,000トン以上の出荷業者が、卸売業者等と主食用の相対取引契約（数量と価格が決定した時点を基準としている。）を行った数量である。なお、新潟、長野、静岡以東(東日本)の産地品種銘柄については受渡地を東日本としているものを、富山、岐阜、愛知以西(西日本の産地品種銘柄については受渡地を西日本としているものを対象としている。

2：産地品種銘柄は、ア 21年産の公表対象産地品種銘柄が存在した道府県における当該産地品種銘柄、又はイ ア以外の道府県における21年産の検査数量の最も多かった1品種銘柄のうち、21年産の農産物検査受検数量原則15,000トン以上のもの。

3：全銘柄合計契約数量は、農林水産省が公表している相対取引価格の報告対象銘柄の契約数量の合計。

（２）民間在庫（出荷段階）の推移



（単位：万トン）

	当年7月	8月	9月	10月	11月	12月	翌年1月	2月	3月	4月	5月	6月	平均
20/21年	47	32	111	285	308	296	277	251	214	182	163	121	191
21/22年	91	73	133	299	328	321	303	279	232	197	165	132	213
対前年差	+44	+41	+22	+14	+20	+25	+26	+28	+18	+15	+2	+11	+22
22/23年	100	85	187	311	329	321	301	268	201	164			
対前年差	+9	+12	+54	+12	+1	▲0	▲2	▲11	▲31	▲33			

資料：農林水産省「米麦の出荷又は販売の事業を行う者等の流通状況調査」（～20年7月）、農林水産省「米穀の取引に関する報告徴収」（20年8月～）
注1：水稲うるちもみ及び水稲うるち玄米の月末在庫量（玄米換算）の値である。
2：米穀の出荷の事業を行う者であって、年間の玄米取扱数量が500トン以上の者の値である。
3：期間については、22/23年であれば、22年7月～23年6月である。
4：22/23年7月末以降は、速報値である。
5：22年3月以降の値は、東日本大震災の影響により一部見込みが含まれている。

（３）相対取引基準価格（全農）の推移

（全農公表資料をもとに農林水産省において算出）

（円/60kg、建値:基準地着、1等、包装代・消費税込み）

期間	相対取引基準価格（全農）	相対取引価格（農林水産省）	期間	相対取引基準価格（全農）	相対取引価格（農林水産省）
22年 8/16～	14,282 (3)	―	23年 1/11～	13,530 (56)	12,710 (106)
8/23～	14,406 (4)		1/17～	13,535 (56)	
8/30～	14,396 (14)		1/24～	13,570 (56)	
9/6～	14,349 (19)	13,040 (84)	1/31～	13,592 (56)	
9/13～	14,778 (30)		2/7～	13,592 (56)	12,687 (105)
9/21～	14,256 (41)		2/14～	13,597 (56)	
9/27～	13,962 (46)		2/21～	13,595 (56)	
10/4～	13,609 (48)	12,781 (104)	2/28～	13,607 (56)	
10/12～	13,525 (53)		3/7～	13,607 (56)	12,750 (106)
10/18～	13,510 (53)		3/14～	13,607 (56)	
10/25～	13,497 (53)		3/22～	13,607 (56)	
11/1～	13,490 (56)	12,630 (107)	3/28～	13,608 (56)	
11/8～	13,451 (56)		4/4～	13,608 (56)	12,760 (102)
11/15～	13,447 (56)		4/11～	13,613 (56)	
11/22～	13,447 (56)		4/18～	13,613 (56)	
11/29～	13,434 (56)		4/25～	13,613 (56)	
12/6～	13,434 (56)	12,711 (106)	5/2～	13,613 (56)	―
12/13～	13,432 (56)		5/9～	13,613 (56)	
12/20～	13,425 (56)		5/16～	13,613 (56)	
12/27～	13,425 (56)		5/23～	13,613 (56)	
			5/30～	13,613 (56)	

注1: 相対取引基準価格(全農)は、全農が公表している全産地品種銘柄の相対取引基準価格を基に、農林水産省において、消費税及び包装代(154円/60kg)を加算し、前年産の検査数量ウエイトを用いて加重平均したもの。
2:相対取引基準価格(全農)の欄の括弧内の数字は、全農が公表している相対取引基準価格の産地品種銘柄数。
3:相対取引価格(農林水産省)の欄の括弧内の数字は、農林水産省が公表している相対取引価格の全銘柄平均価格の算出に用いた産地品種銘柄数。

（４）産地銘柄別概算金の設定状況

①　全農系統の22年産の概算金

（単位：円/60kg、1等・包装込み）

産地銘柄		22年産概算金（当初）①	21年産概算金（当初）②	前年産との差額 ①－②	産地銘柄		22年産概算金（当初）①	21年産概算金（当初）②	前年産との差額 ①－②
北海道	きらら397	10,000	11,000	−1,000	新潟	コシヒカリ（一般）	12,300	13,700	−1,400
青森	つがるロマン	8,500	11,400	−2,900	新潟	コシヒカリ（魚沼）	16,500	18,700	−2,200
岩手	ひとめぼれ	8,700	12,300	−3,600	富山	コシヒカリ	11,000	13,000	−2,000
宮城	ひとめぼれ	8,700	12,300	−3,600	石川	コシヒカリ	10,400	12,350	−1,950
秋田	あきたこまち	9,000	12,300	−3,300	福井	ハナエチゼン	9,000	10,500	−1,500
山形	はえぬき	9,000	12,300	−3,300	三重	コシヒカリ（一般）	10,000	12,100	−2,100
福島	コシヒカリ（会津）	10,000	12,400	−2,400	滋賀	コシヒカリ	10,000	12,000	−2,000
福島	コシヒカリ（中通り）	9,400	12,000	−2,600	鳥取	コシヒカリ	10,500	12,500	−2,000
茨城	コシヒカリ	10,000	12,000	−2,000	島根	コシヒカリ	10,700	12,800	−2,100
栃木	コシヒカリ	10,000	12,100	−2,100	山口	コシヒカリ	10,020	12,000	−1,980
埼玉	コシヒカリ	9,500	12,000	−2,500	香川	コシヒカリ	9,900	12,000	−2,100
千葉	コシヒカリ	10,000	12,000	−2,000	福岡	夢つくし	10,800	12,600	−1,800
長野	コシヒカリ	10,360	12,160	−1,800	熊本	ヒノヒカリ	9,540	12,300	−2,760

注１：業界紙等の情報を基に農林水産省で取りまとめたものである。
　２：概算金はあくまで内金であり、最終的に販売価格が確定した段階で精算払が行われるものであることに注意が必要。また、販売状況を見ながら概算金の追加払を行うところもある。

②　全集連系統の22年産の概算金

（単位：円/60kg、1等・包装込み）

産地銘柄		22年産概算金（当初）①	21年産概算金（当初）②	前年産との差額 ①－②	産地銘柄		22年産概算金（当初）①	21年産概算金（当初）②	前年産との差額 ①－②
北海道	きらら397	10,000	11,000	−1,000	埼玉	コシヒカリ	9,500	12,000	−2,500
青森	つがるロマン	8,500	11,400	−2,900	千葉	コシヒカリ	10,000	12,500	−2,500
岩手	ひとめぼれ	8,700	12,300	−3,600	長野	コシヒカリ	10,360	12,160	−1,800
宮城	ひとめぼれ	8,700	12,300	−3,600	新潟	コシヒカリ（一般）	12,300	13,700	−1,400
秋田	あきたこまち	9,000	12,300	−3,300	新潟	コシヒカリ（魚沼）	16,500	18,700	−2,200
山形	はえぬき	9,000	12,300	−3,300	滋賀	コシヒカリ	10,000	12,000	−2,000
福島	コシヒカリ（会津）	10,000	12,400	−2,400	島根	コシヒカリ	10,700	12,800	−2,100
福島	コシヒカリ（中通り）	9,400	12,000	−2,600	福岡	夢つくし	10,800	12,600	−1,800
茨城	コシヒカリ	10,000	12,000	−2,000	熊本	ヒノヒカリ	9,540	12,300	−2,760
栃木	コシヒカリ	10,000	12,100	−2,100					

注１：業界紙等の情報を基に農林水産省で取りまとめたものである。
　２：概算金はあくまで内金であり、最終的に販売価格が確定した段階で精算払が行われるものであることに注意が必要。また、販売状況を見ながら概算金の追加払を行うところもある。

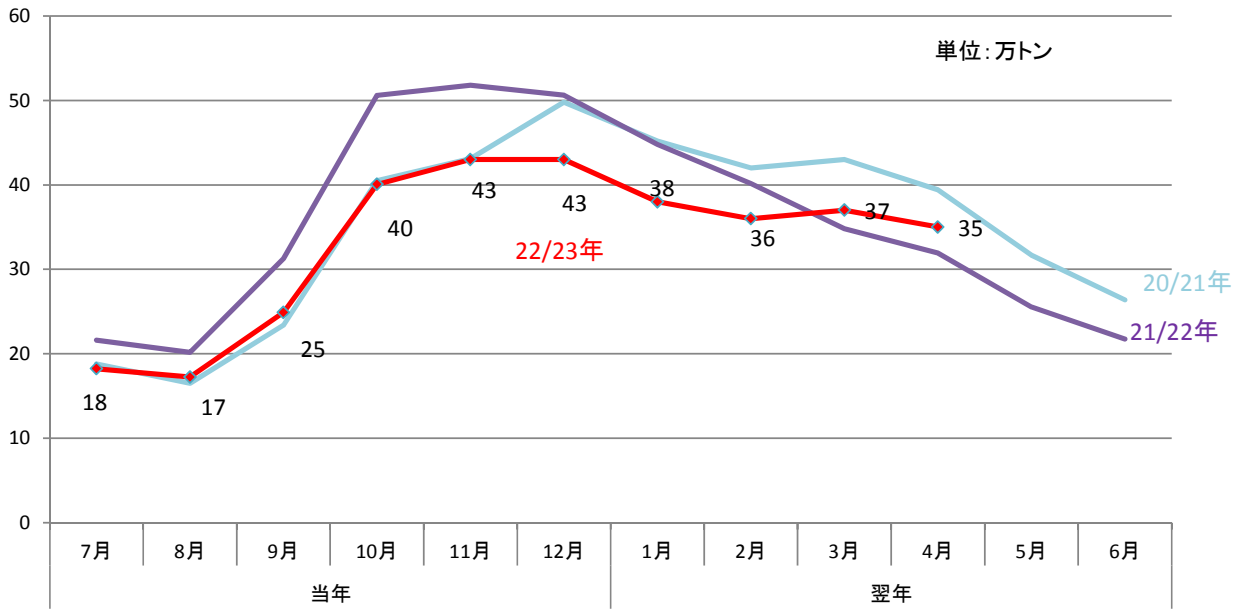
（５）（株）加工用米取引センターの取引結果

成約実績なし。（6月2日現在）

資料：㈱加工用米取引センターHP

２．卸売段階の動向

（１）民間在庫（販売段階）の推移



（単位：万トン）

	当年 7月	8月	9月	10月	11月	12月	翌年 1月	2月	3月	4月	5月	6月	平均
20/21年	19	17	23	41	43	50	45	42	43	39	32	26	35
21/22年	22	20	31	51	52	51	45	40	35	32	26	22	35
対前年差	+3	+4	+8	+10	+9	+1	▲0	▲2	▲8	▲7	▲6	▲5	+0
22/23年	18	17	25	40	43	43	38	36	37	35			
対前年差	▲3	▲3	▲6	▲11	▲9	▲8	▲7	▲4	+2	+3			

資料：農林水産省「米麦の出荷又は販売の事業を行う者等の流通状況調査」（～20年７月）
　　農林水産省「米穀の取引に関する報告」（20年８月～）
注１：水稲うるちもみ及び水稲うるち玄米の月末在庫量（玄米換算）の値である。
　２：米穀の販売の事業を行う者であって、年間の玄米取扱数量が4,000トン以上の者の値である。
　３：期間については、22/23年であれば、22年７月～23年６月である。
　４：22/23年７月以降の値は、速報値である。
　５：23年３月以降の値は、東日本大震災の影響により一部見込みが含まれている。

（２）業者間取引の状況

①　日本コメ市場（随時取引の結果）

（関東到着基準、1等、包装代込、税抜き、円/60kg）

年産・産地銘柄		10月上期	10月下期	11月上期	11月下期	12月上期	12月下期	1月上期	1月下期
22年産	北海道きらら397	―	―	―	―	―	―	―	―
22年産	青森つがるロマン	―	10,630	―	―	―	―	―	―
22年産	宮城ひとめぼれ	11,171	10,985	10,973	11,132	―	―	―	―
22年産	秋田あきたこまち	11,595	11,801	12,053	11,979	11,908	―	12,155	12,667
22年産	福島コシヒカリ（中通り）	11,825	11,932	12,304	12,611	12,782	―	―	13,930
22年産	茨城コシヒカリ	11,801	12,020	―	12,193	―	12,587	―	―
22年産	栃木コシヒカリ	11,734	11,837	12,058	12,136	12,323	12,712	12,900	13,309
22年産	新潟コシヒカリ	―	14,380	14,491	14,755	―	―	―	―

年産・産地銘柄		2月上期	2月下期	3月上期	3月下期	4月上期	4月下期	5月上期 ※
22年産	北海道きらら397	―	―	―	―	11,594	―	―
22年産	青森つがるロマン	―	―	―	―	―	―	―
22年産	宮城ひとめぼれ	―	―	―	―	―	―	―
22年産	秋田あきたこまち	12,493	12,457	―	12,902	14,721	15,043	―
22年産	福島コシヒカリ（中通り）	14,194	―	14,085	14,446	14,440	―	―
22年産	茨城コシヒカリ	―	13,217	13,159	―	―	―	―
22年産	栃木コシヒカリ	―	13,014	13,220	―	―	―	―
22年産	新潟コシヒカリ	―	―	―	―	―	―	―

出典：日本コメ市場株式会社HP
注1：随時取引とは、取引日を限定せずに、ファックス、電話、IT等によって行う取引である。
2：上記価格は、日本コメ市場㈱の取引における成約価格を取引数量により加重平均したものである。
3：上期は、1日から15日まで、下期は、16日から月末までを示す。
4：上記価格は、主にスポット取引の価格であり、相当期間にわたり安定的に行う取引の価格とは性格を異にするので利用に当たっては注意が必要。
5：5月上期に関しては、成約数量が日本コメ市場の内部規程で定める基準を満たさなかったため非公表。

②　日本コメ市場・クリスタルライス（取引会の結果）
（主たる銘柄の成約状況）

（単位：円/俵、トン）

年産・産地銘柄		平成22年度										平成23年度	
		第4回 9月29日		第5回 10月20日		第6回 12月2日		第7回 1月13日		第8回 3月2日		第1回 5月12日	
		成約価格	(成約数量)	成約価格	(成約数量)	成約価格	(成約数量)	成約価格	(成約数量)	成約価格	(成約数量)	成約価格	(成約数量)
22年産	青森まっしぐら	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	13,010	(60)
22年産	宮城ひとめぼれ	11,408	(34)	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
22年産	秋田あきたこまち	11,658	(94)	11,816	(164)	12,019	(96)	12,281	(140)	12,598	(177)	17,180	(65)
22年産	山形はえぬき	10,886	－	10,558	(108)	10,934	(38)	10,950	(48)	11,226	(25)	－	－
22年産	福島ひとめぼれ	10,614	(57)	10,665	(68)	11,180	(77)	11,467	(36)	11,806	(47)	14,166	(27)
22年産	福島コシヒカリ（中通り）	－	－	－	－	12,990	－	13,980	(60)	14,014	(42)	17,644	(29)
22年産	福島コシヒカリ（浜通り）	－	－	－	－	12,550	(22)	－	－	－	－	－	－
22年産	茨城コシヒカリ	－	－	－	－	－	－	－	－	13,235	(55)	17,089	(56)
22年産	栃木コシヒカリ	11,700	(60)	11,830	(60)	12,100	－	12,966	(73)	－	－	－	－
22年産	新潟コシヒカリ（一般）	14,520	(48)	14,230	(107)	15,400	(24)	－	－	－	－	－	－
成約米穀の平均価格（加重平均）		12,163	(767)	11,376	(1,164)	11,426	(970)	12,756	(1,357)	12,804	(1,077)	14,777	(1,087)

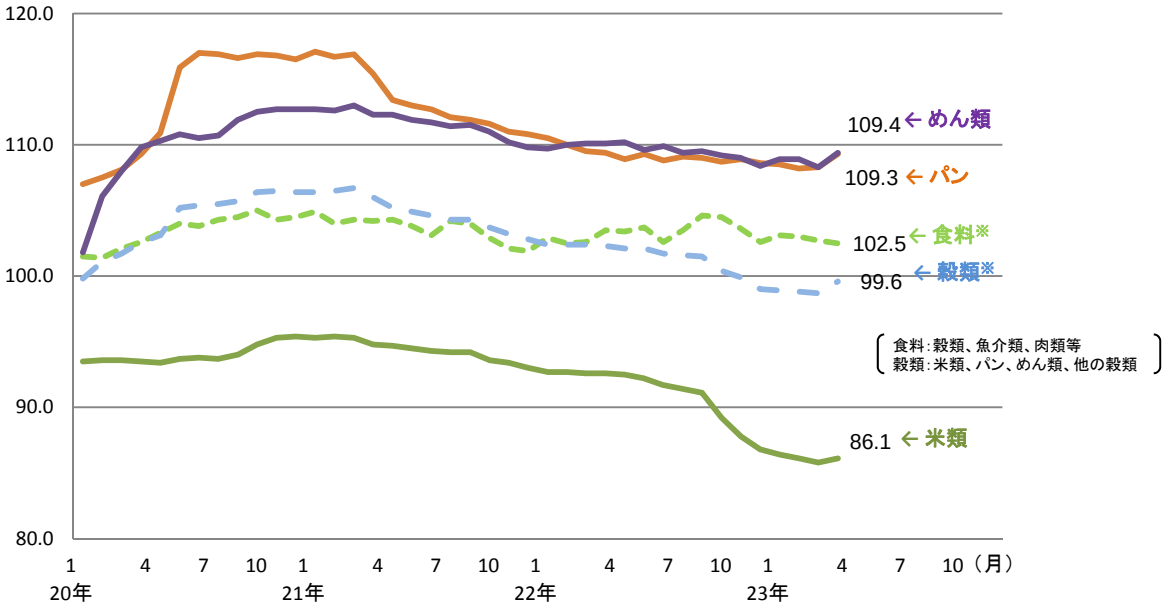
出典：日本コメ市場株式会社のHP
注1：取引会における取引は、原則毎月、東京、大阪及び福岡において開催される取引会において入札により行われるものである。
2：価格は、1等、包装代（紙袋）含む関東着基準であり、取引における成約価格を取引数量により加重平均したものである。
3：「－」は、同社のホームページにおいて未掲載を示す。

３．小売・消費段階の動向

（１） 小売価格・消費者物価の推移

① 消費者物価指数の推移

（図）消費者物価指数の推移



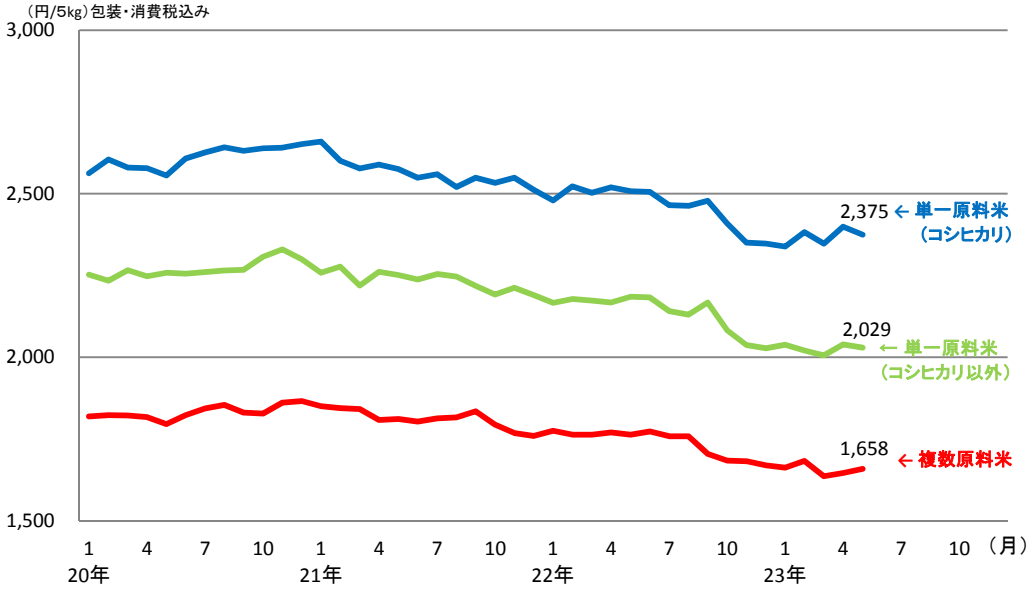
（表）消費者物価指数の推移（対前年同月比）

	食料	対前年同月比	穀類	対前年同月比	米類	対前年同月比	うるち米	対前年同月比	パン	対前年同月比	めん類	対前年同月比
平成17年	100.0	▲0.9%	100.0	▲6.6%	100.0	▲13.3%	100.0	▲12.9%	100.0	▲1.1%	100.0	▲0.8%
平成18年	100.5	0.5%	98.3	▲1.7%	96.9	▲3.1%	97.0	▲3.0%	99.9	▲0.1%	98.8	▲1.2%
平成19年	100.8	0.3%	97.8	▲0.5%	95.2	▲1.8%	95.4	▲1.6%	100.6	0.7%	98.3	▲0.5%
平成20年	103.4	2.6%	104.1	6.4%	94.0	▲1.3%	94.2	▲1.3%	113.3	12.6%	109.8	11.7%
平成21年	103.6	0.2%	104.9	0.8%	94.4	0.4%	94.4	0.2%	113.6	0.3%	111.7	1.7%
平成22年1月	102.9	▲1.9%	102.4	▲3.8%	92.7	▲2.7%	92.7	▲2.8%	110.5	▲5.6%	109.7	▲2.7%
2月	102.5	▲1.4%	102.4	▲3.8%	92.7	▲2.8%	92.7	▲2.9%	110.0	▲5.7%	110.0	▲2.3%
3月	102.6	▲1.6%	102.4	▲4.0%	92.6	▲2.8%	92.6	▲2.9%	109.5	▲6.3%	110.1	▲2.6%
4月	103.5	▲0.7%	102.3	▲3.5%	92.6	▲2.3%	92.6	▲2.3%	109.4	▲5.2%	110.1	▲2.0%
5月	103.4	▲0.9%	102.1	▲2.9%	92.5	▲2.3%	92.4	▲2.4%	108.9	▲4.0%	110.2	▲1.9%
6月	103.7	▲0.1%	102.1	▲2.7%	92.2	▲2.4%	92.2	▲2.4%	109.3	▲3.3%	109.6	▲2.1%
7月	102.6	▲0.5%	101.7	▲2.8%	91.7	▲2.8%	91.6	▲2.9%	108.8	▲3.5%	109.9	▲1.6%
8月	103.5	▲0.7%	101.6	▲2.6%	91.4	▲3.0%	91.4	▲3.0%	109.1	▲2.7%	109.4	▲1.8%
9月	104.6	0.6%	101.5	▲2.7%	91.1	▲3.3%	91.1	▲3.3%	109.0	▲2.6%	109.5	▲1.8%
10月	104.5	1.6%	100.4	▲3.2%	89.2	▲4.7%	89.0	▲4.9%	108.7	▲2.6%	109.2	▲1.6%
11月	103.6	1.5%	99.9	▲3.2%	87.8	▲6.0%	87.7	▲6.1%	108.9	▲1.9%	109.0	▲1.1%
12月	102.6	0.7%	99.0	▲3.7%	86.8	▲6.7%	86.7	▲6.9%	108.6	▲2.0%	108.4	▲1.3%
平成23年1月	103.1	0.2%	98.9	▲3.4%	86.4	▲6.8%	86.3	▲6.9%	108.5	▲1.8%	108.9	▲0.7%
2月	103.0	0.5%	98.8	▲3.5%	86.1	▲7.1%	86.0	▲7.2%	108.2	▲1.6%	108.9	▲1.0%
3月	102.7	0.1%	98.7	▲3.6%	85.8	▲7.3%	85.7	▲7.5%	108.3	▲1.1%	108.3	▲1.6%
4月	102.5	▲1.0%	99.6	▲2.6%	86.1	▲7.0%	86.0	▲7.1%	109.3	▲0.1%	109.4	▲0.6%

資料：総務省「消費者物価指数」
注1：平成17年を100として指数化している。
　2：食料は、穀類以外にも、魚介類、肉類等を含んでいる。
　3：穀類は、米類（うるち米、もち米）、パン、めん類、他の穀類からなる。
　4：平成17年から平成21年のデータは年平均、平成22年以降は月次データを用いている。

②　小売物価統計による推移

（図）小売物価統計による推移



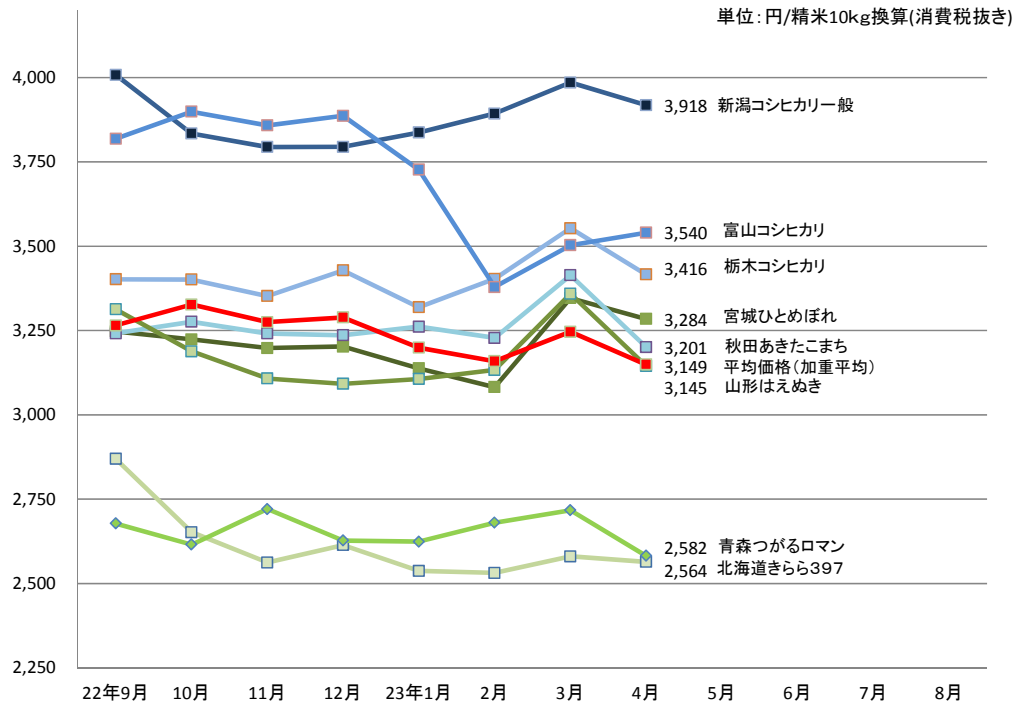
（表）小売物価統計による推移

（単位：円/5kg　包装・消費税込み）

	うるち米		
	単一原料米（コシヒカリ）	単一原料米（コシヒカリ以外）	複数原料米
平成17年	2,804	2,375	2,040
平成18年	2,744	2,341	1,996
平成19年	2,670	2,288	1,950
平成20年	2,610	2,270	1,832
平成21年	2,531	2,201	1,812
平成22年1月	2,479	2,166	1,775
2月	2,522	2,178	1,763
3月	2,503	2,173	1,763
4月	2,519	2,167	1,770
5月	2,508	2,185	1,763
6月	2,506	2,183	1,773
7月	2,465	2,141	1,758
8月	2,463	2,130	1,758
9月	2,478	2,167	1,704
10月	2,409	2,082	1,684
11月	2,350	2,037	1,682
12月	2,347	2,027	1,669
平成23年1月	2,338	2,038	1,662
2月	2,382	2,020	1,683
3月	2,347	2,006	1,636
4月	2,399	2,039	1,646
5月	2,375	2,029	1,658

資料：総務省「小売物価統計」
注１：東京都区部の数値である。
　２：特売を除いた価格である。
　３：精米ベースである。

③　小売価格の推移（ＰＯＳデータ）



資料：㈱KSP－SPが提供するPOSデータに基づいて農林水産省が作成
注１：㈱KSP－SPが提供するPOSデータは、全国約800店舗のスーパー、生協等から購入したデータに基づくものである。
２：POSデータは、データ提供企業から遅れて報告されるものもあるため、時点によって集計結果に若干のずれが生じることがあり、今後、修正されることもある。
３：POSデータの提供店舗数は、変動があることに留意が必要である。
４：平均価格（加重平均）は、POSデータで把握できる全ての精米の小売価格について加重平均を行った価格である。

（2） 購入数量の推移（家計調査）

（単位：グラム）

	米		パン		めん類	
	購入数量	対前年同月比	購入数量	対前年同月比	購入数量	対前年同月比
平成20年	88,550	103.8%	44,445	98.2%	35,899	101.2%
平成21年	85,110	96.1%	45,599	102.6%	36,615	102.0%
平成22年1月	4,920	98.0%	3,673	104.3%	2,966	103.9%
2月	5,600	100.2%	3,484	99.7%	2,778	103.3%
3月	6,420	101.3%	4,119	102.2%	3,135	100.4%
4月	6,400	96.7%	3,989	101.1%	2,937	103.0%
5月	6,330	101.8%	3,954	96.6%	3,000	94.2%
6月	6,430	106.1%	3,790	99.1%	3,038	98.8%
7月	6,140	95.8%	3,850	100.1%	3,503	101.3%
8月	6,240	94.4%	3,612	96.2%	3,268	104.6%
9月	8,930	91.6%	3,663	94.4%	2,534	100.2%
10月	10,310	91.7%	3,979	101.0%	2,914	101.2%
11月	7,920	98.5%	3,700	99.0%	3,020	100.9%
12月	7,500	104.9%	3,680	103.1%	3,906	104.4%
平成23年1月	4,790	97.4%	3,656	99.5%	2,875	96.9%
2月	5,110	91.3%	3,573	102.6%	2,763	99.5%
3月	7,470	116.4%	4,088	99.2%	3,447	110.0%
4月	5,950	93.0%	3,878	97.2%	2,776	94.5%

資料：総務省「家計調査」
注1：二人以上の世帯の数値である。
2：平成20年及び平成21年については、年間の購入数量を示す。
3：精米ベースである。

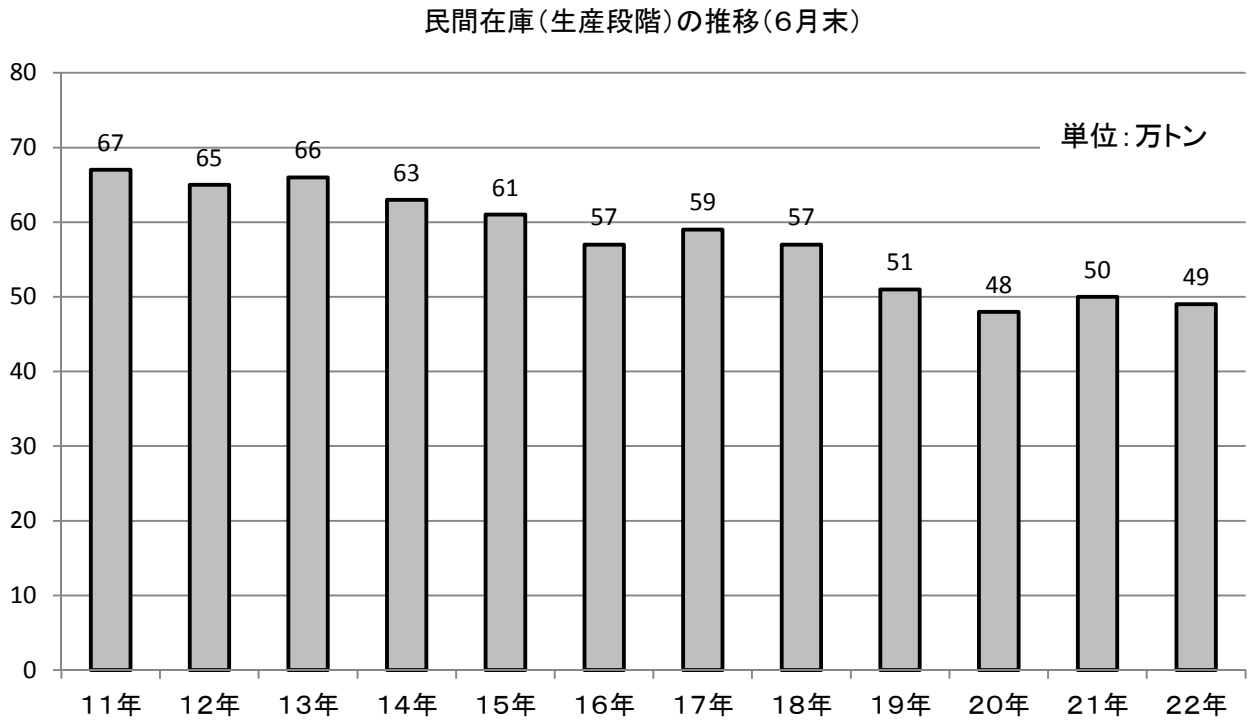
４．生産段階の動向

（１） 国産米の作況・収穫量（平成22年産の水稲の収穫量）

年産	作付面積（子実用）	10a当たり収量	収穫量（子実用）	（参考）				作況指数
				主食用作付面積	収穫量（主食用）	10a当たり平年収量	生産数量目標	
	ha	kg	t	ha	t	kg	t	
18	1 684 000	507	8 546 000	…	…	529	8 330 983	96
19	1 669 000	522	8 705 000	…	…	529	8 284 755	99
20	1 624 000	543	8 815 000	1 596 000	8 658 000	530	8 149 720	102
21	1 621 000	522	8 466 000	1 592 000	8 309 000	530	8 150 020	98
22	1 625 000	522	8 478 000	1 580 000	8 239 000	530	8 129 990	98

出典：農林水産省「平成22年産水陸稲の収穫量」
注1：作付面積（子実用）とは、青刈り用の面積を除いた面積である。
2：主食用作付面積とは、水稲作付面積（青刈り面積を含む。）から、需給調整の取組として取り扱う米穀等（加工用米、新規需要米等）の面積を除いた面積である。
3：「…」は、事実不詳又は調査を欠くものであることを示す。
4：18年産、19年産の生産数量目標については、消費純増策の取組数量を含み、加工用米認定計画数量を控除したものである。
なお、過剰作付けが解消される方向に誘導する観点から、需要見通しから一定数量を削減して設定している。

（２） 民間在庫（生産段階）の推移



資料：農林水産省「生産者の米穀在庫等調査」
注：「生産者の米穀現在高等調査」（平成22年以降は「生産者の米穀在庫等調査」）を基に算出（精米在庫量を除く玄米在庫量）。

（3）水稲うるち玄米（２２年産米）の検査結果

水稲うるち玄米の検査数量及び等級別数量の推移

（単位:トン、%）

年産別	検査数量	等級別数量				等級比率			
		1等	2等	3等	規格外	1等	2等	3等	規格外
17	5,047,547	3,788,571	1,000,515	168,455	90,006	75.1	19.8	3.3	1.8
18	4,776,481	3,746,166	822,163	112,475	95,677	78.4	17.2	2.4	2.0
19	4,805,870	3,826,432	795,452	95,082	88,903	79.6	16.6	2.0	1.8
20	5,093,440	4,073,571	849,087	76,542	94,240	80.0	16.7	1.5	1.9
21	4,818,603	4,102,807	582,137	48,396	85,263	85.1	12.1	1.0	1.8
22※	4,600,697	2,828,013	1,515,790	148,256	108,638	61.5	32.9	3.2	2.4

資料: 農林水産省とりまとめ
注1:「一等比率」とは、農産物検査法に基づく検査の結果、一等に格付けされた割合である。
2:22年産については、平成23年4月30日現在

（4）加工用米及び新規需要米の取組状況

① 加工用米の集荷実績数量

単位:トン

	うるち米	もち米	合計
平成16年産	117,837	4,404	122,241
平成17年産	123,996	4,738	128,734
平成18年産	140,596	7,996	148,592
平成19年産	152,145	10,659	162,804
平成20年産	138,895	10,154	149,048
平成21年産	134,389	6,779	141,168

（参考） 平成22年産	194,805	23,519	218,324

資料: 農林水産省「加工用米集荷実績数量」
注1: 平成22年産においては、加工用米取組計画の認定を受けた数量である。
2: 四捨五入の関係で個々の数字の積み上げと合計が一致しない場合がある。

② 新規需要米の用途別認定状況

用途区分	平成２０年産		平成２１年産		平成２２年産	
	認定数量（トン）	認定面積（ha）	認定数量（トン）	認定面積（ha）	認定数量（トン）	認定面積（ha）
米粉用米	566	108	13,041	2,401	27,796	4,957
飼料用米	8,020	1,410	23,264	4,123	81,237	14,883
バイオエタノール用米	2,426	303	2,314	295	2,940	397
ＷＣＳ用稲（※） （稲発酵粗飼料用稲）	―	9,089	―	10,203	―	15,939
輸出用米	391	74	926	164	2,184	388
その他（※） （わら専用稲、青刈り用稲等）	982	1,330	1,108	956	694	508
合計	12,386	12,314	40,654	18,142	114,851	37,072

資料：農林水産省「新規需要米の取組計画認定状況」
注1：WCS用稲、わら専用、青刈り用稲については子実を採らない用途であるため認定数量はなし。
2：四捨五入の関係で個々の数字の積み上げと合計が一致しない場合がある。

５．備蓄米及びMA米の動向

（１）国内産備蓄米の売買数量及び在庫数量

①　国内産備蓄米の政府買入数量

1　一般枠

単位：トン

区分	第1回（平成23年2月25日実施）		第2回（平成23年4月28日実施）		第3回（平成23年5月16日実施）		第4回（平成23年5月26日実施）		落札数量累計	契約辞退数量
	提示数量	落札数量	提示数量	落札数量	提示数量	落札数量	提示数量	落札数量		
区分Ⅰ（玄米）	138,000	24,172	113,854	4,153	110,901	754	131,529	0	29,079	1,200
区分Ⅱ（もみ）	－	－	1,200	－	1,200	－	1,200	0	0	0
合　計	138,000	24,172	115,054	4,153	112,101	754	132,729	0	29,079	1,200

注1　区分Ⅱについては、もみと等量の玄米による入札である。
注2　優先枠における落札残数量（※21,382トン）については、第4回目の一般枠定時数量に繰り入れた。

2　優先枠

単位：トン

産　地	第1回（平成23年2月25日実施）		第2回（平成23年4月28日実施）		第3回（平成23年5月16日実施）		落札数量累計	契約辞退数量	落札残数量
	提示数量	落札数量	提示数量	落札数量	提示数量	落札数量			
北海道	7,000	7,000	－	－	－	－	7,000	0	0
岩　手	6,700	1,356	5,344	4,327	1,017	－	5,683	0	1,017
宮　城	5,900	5,700	200	－	5,900	－	5,700	5,700	5,900
秋　田	11,300	11,274	－	－	－	－	11,274	0	0
山　形	3,900	3,900	－	－	－	－	3,900	0	0
東　京	100	－	100	－	100	－	0	0	100
富　山	6,200	－	6,200	6,200	－	－	6,200	0	0
滋　賀	1,200	－	1,200	－	1,200	－	0	0	1,200
広　島	2,100	－	2,100	1,017	1,083	－	1,017	0	1,083
山　口	5,100	－	5,100	2,903	2,197	100	3,003	0	2,097
香　川	1,300	0	1,300	300	1,000	285	585	0	715
愛　媛	1,000	－	1,000	422	578	－	422	0	578
福　岡	1,300	－	1,300	120	1,180	－	120	0	1,180
佐　賀	5,700	－	5,700	188	5,512	－	188	0	5,512
熊　本	500	－	500	－	500	－	0	0	500
大　分	300	－	300	－	300	－	0	0	300
宮　崎	500	0	500	－	500	－	0	0	500
鹿児島	700	－	700	－	700	－	0	0	700
合　計	60,800	29,230	31,544	15,477	21,767	385	45,092	5,700	※　21,382

注3　秋田県の第1回落札残数量（26トン）については、最低申込数量（100トン）に満たないため、第2回目の一般枠に繰り入れた。

3　合計（一般枠＋優先枠）

単位：トン

	第1回（平成23年2月25日実施）		第2回（平成23年4月28日実施）		第3回（平成23年5月16日実施）		第4回（平成23年5月26日実施）		落札数量累計 ⑤（①+②+③+④）	契約辞退数量 ⑥	落札残数量（20万トン－⑤+⑥）
総計（一般枠＋優先枠）	提示数量	落札数量 ①	提示数量	落札数量 ②	提示数量	落札数量 ③	提示数量	落札数量 ④			
	198,800	53,402	146,598	19,630	133,868	1,139	132,729	0	74,171	6,900	132,729

注4　買入予定数量（20万トン）については、第1回の提示数量（198,800トン、一般枠＋優先枠）と第2回目から提示した一般枠分区分Ⅱ（もみ）の提示数量（1,200トン）との合計である。

② 国内産備蓄米の売渡数量

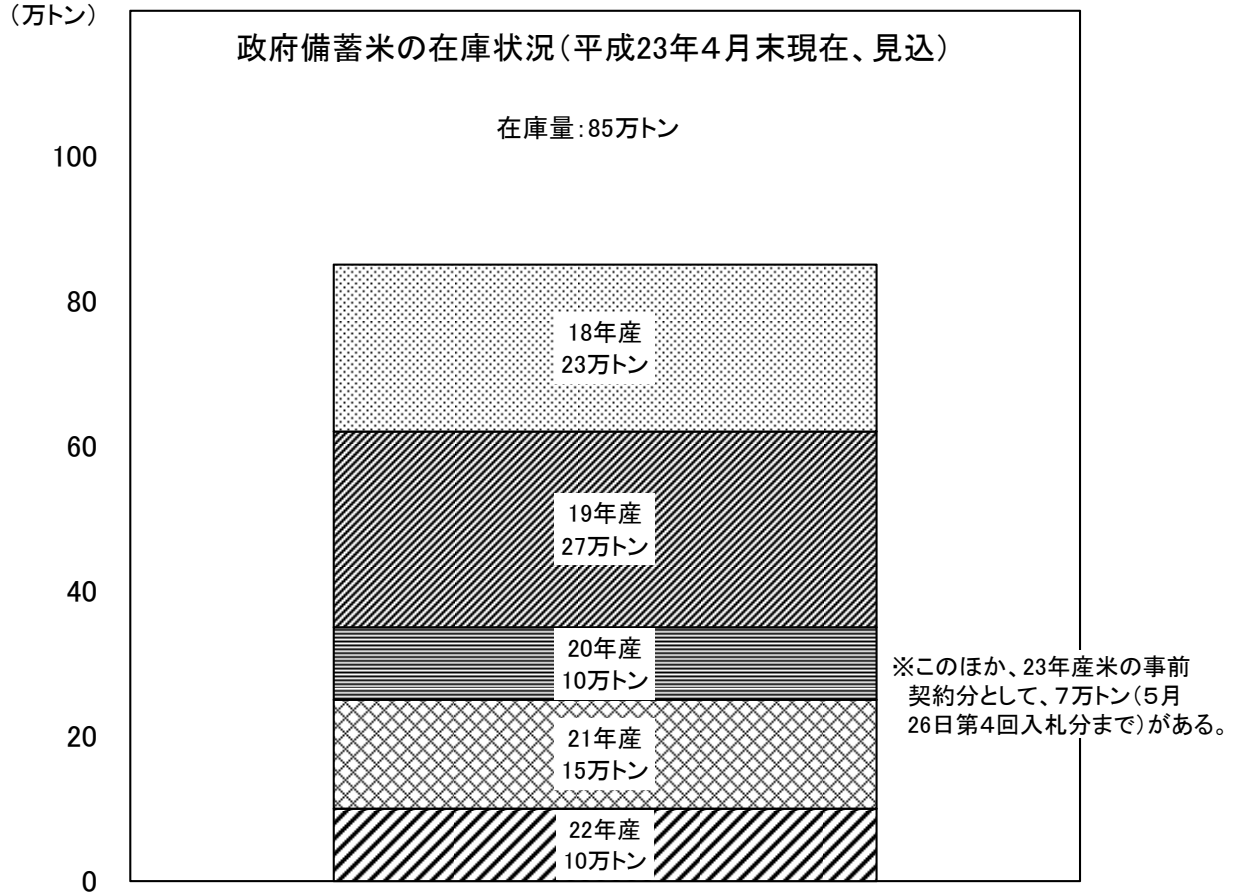
最近における政府備蓄米（主食用）の販売状況

（単位：千トン）

	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	計
19/20年	17	24	20	21	20	7	0	1	0	1	0	6	117
20/21年	26	34	15	14	16	17	13	13	13	14	10	11	196
21/22年	6	4	4	3	3	2	1	2	2	1	2	1	31
22/23年	1	1	1	0	0	0	0	0	－	－	－	－	3

資料：農林水産省「最近における政府備蓄米（主食用）の販売状況」
注１：期間については、22/23年であれば、平成22年7月～23年6月である。
　２：販売数量は実際に卸売業者等が引き取った実績であり、契約数量とは異なる。
　３：19/20年の11月・12月については緊急対策による販売停止以前に契約された分の引取数量であり、1～5月については矯正施設向けに販売し、引き取られた数量である。
　４：平成23年1月をもって、政府所有国内産米穀（主食用）の販売入札（2月引取分まで）を終了している。

③ 国内産備蓄米の在庫数量



注1：ラウンドの関係で合計と内訳が一致しない場合がある。
　2：東日本大震災の影響により、18年産：3万トン、19年産：3万トン、20年産：0万トン、21年産：1万トンの津波地震被害が見込まれる。
　3：23年4月末在庫量（見込）は、今後、地震・津波被害状況の確定により変動が生じる。

（２） ＭＡ米（一般・ＳＢＳ）の動向

① ＭＡ米の輸入数量（輸入先国別及び輸入方式別）

（単位：万玄米トン）

	平成7年度	平成8年度	平成9年度	平成10年度	平成11年度	平成12年度	平成13年度	平成14年度	平成15年度
米国	19	23	29	32	34	36	36	36	36
タイ	11	14	15	15	16	17	15	15	15
中国	3	4	5	8	9	10	14	11	11
オーストラリア	9	9	9	11	11	12	11	10	9
その他	1	1	2	2	2	2	1	5	5
合計	43	51	60	68	72	77	77	77	76
（うち一般輸入）	42	49	54	55	59	63	66	71	65
（うちSBS輸入）※	1	2	6	12	12	12	10	5	10

	平成16年度	平成17年度	平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度（５月末現在）
米国	36	36	36	36	43	36	36	1
タイ	19	19	18	25	27	33	35	－
中国	10	9	8	8	7	7	2	－
オーストラリア	2	2	5	－	－	－	4	1
その他	10	11	10	1	0	1	0	－
合計	77	77	77	70	77	77	77	3
（うち一般輸入）	66	66	66	59	66	66	72	3
（うちSBS輸入）※	9	10	10	10	10	10	4	－

資料：農林水産省「ミニマム・アクセス米をめぐる状況」
※ＳＢＳ輸入数量の単位は万実トン。
注１：各年度の輸入契約数量の推移。なお、平成23年度については、入札結果を含んだ数値である。
２：実トンと玄米トンのため合計は一致しないことがある。
（参考）MA米以外で、枠外税率を支払って輸入されるコメの数量は、毎年0.1～0.2千トン程度

② 一般輸入米(加工原材料用)の販売状況(平成22年度)

(単位：トン)

	うるち	もち
4月～6月分 (平成22年3月26日実施分)	18,598	―
5月分 (平成22年4月21日実施分)	3,744	684
6月分 (平成22年5月20日実施分)	3,656	764
7月分 (平成22年6月22日実施分)	4,442	431
7月～9月分 (平成22年6月22日実施分)	26,672	1,110
8月分 (平成22年7月21日実施分)	2,690	349
9月分 (平成22年8月19日実施分)	2,999	765
10月分 (平成22年9月16日、28日実施分)	774	180
10月～12月分 (平成22年9月16日、28日実施分)	20,676	1,680

	うるち	もち
11月分 (平成22年10月22日、28日実施分)	1,521	190
12月分 (平成22年11月11日、19日実施分)	1,747	274
1月分 (平成22年12月14日、17日及び22日実施分)	1,150	185
1月～3月分 (平成22年12月14日、17日及び22日実施分)	20,084	1,728
2月分 (平成23年1月18日、24日実施分)	1,070	227
3月分 (平成23年2月15日、22日実施分)	1,519	246
合 計	111,342	8,813
	120,155	

資料：農林水産省「加工用原材料用に係る政府所有ミニマム・アクセス米の定例販売の結果について」、「加工原材料用に係る政府所有ミニマム・アクセス米の見積合わせ結果の概要について」

③ SBS米の販売状況(平成22年度)

(単位：トン)

		アメリカ		タイ		中国		その他		合計
		うるち	もち	うるち	もち	うるち	もち	うるち	もち	
第1回(平成22年9月17日)	一般米	―	―	40	―	―	―	80	―	120
	砕精米	1,028	216	1,040	―	216	―	―	―	2,500
第2回(平成22年10月20日)	一般米	36	504	256	―	120	―	―	―	916
	砕精米	1,138	208	1,546	―	108	―	―	―	3,000
第3回(平成22年11月5日)	一般米	―	324	678	―	196	―	302	―	1,500
	砕精米	2,206	―	1,100	―	―	―	―	―	3,306
第4回(平成22年11月30日)	一般米	40	162	54	―	360	―	―	―	616
	砕精米	1,322	―	1,380	―	108	―	―	―	2,810
第5回(平成22年12月17日)	一般米	146	108	112	―	100	―	36	―	502
	砕精米	3,466	―	1,534	―	―	―	―	―	5,000
第6回(平成23年1月12日)	一般米	566	―	140	60	340	―	―	―	1,106
	砕精米	1,936	108	800	―	―	―	―	―	2,844
第7回(平成23年2月2日)	一般米	352	502	240	60	820	―	―	―	1,974
	砕精米	1,310	―	320	―	100	―	―	―	1,730
第8回(平成23年2月16日)	一般米	740	404	40	―	560	―	―	―	1,744
	砕精米	1,452	―	300	―	―	―	―	―	1,752
第9回(平成23年3月2日)	一般米	1,024	224	320	―	440	―	120	―	2,128
	砕精米	2,580	108	990	―	―	―	―	―	3,678
合計	一般米	2,904	2,228	1,880	120	2,936	0	538	0	10,606
	砕精米	16,438	640	9,010	0	532	0	0	0	26,620

資料：農林水産省「平成22年度輸入米に係るSBSの結果の概要」

Ⅱ　米取引関係者の判断(平成23年5月)

○　米取引関係者に対して、需給動向や価格水準などの取引動向に関するアンケートを実施し、その結果をＤＩとして算出したものである（詳細はＰ２３）を参照）。

○　アンケート第一回目であり、ＤＩ値の前月との比較はできない。

１．国内の主食用米の需給及び価格動向に対する判断（全体）

①主食用米の需給動向

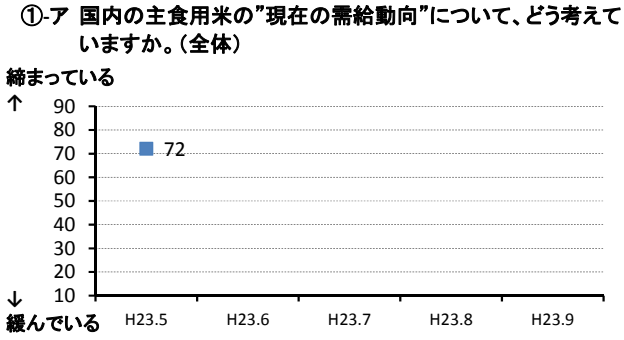
ア　現状判断ＤＩ

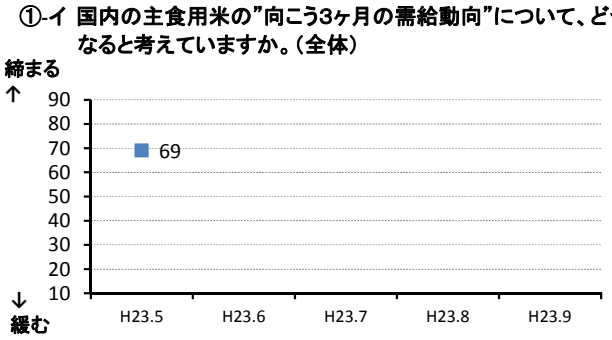
前月からの増減　数値なし　（今月の数値　７２）

イ　見通し判断ＤＩ（向こう３ヶ月）

前月からの増減　数値なし　（今月の数値　６９）

※　当月の数値が前月と比較し100に近づけば、「締まっている」/「(将来)締まる」という見方が前月より強くなり、反対に０に近づけば、「緩んでいる」/「(将来)緩む」という見方が前月より強くなった傾向を示す。





②主食用米の米価水準

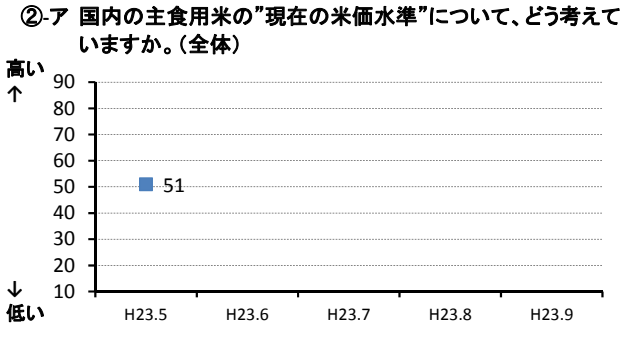
ア　現状判断ＤＩ

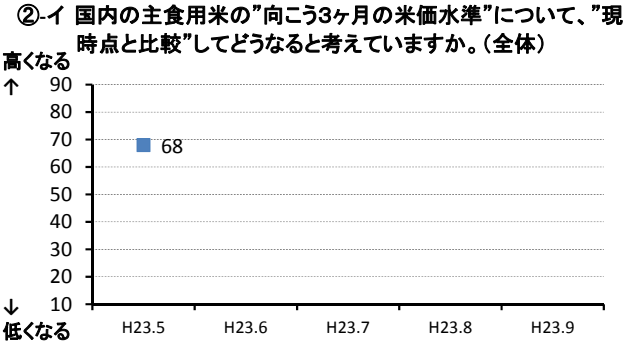
前月からの増減　数値なし　（今月の数値　５１）

イ　見通し判断ＤＩ（向こう３ヶ月）

前月からの増減　数値なし　（今月の数値　６８）

※　当月の数値が前月と比較し100に近づけば、米価水準が高い/米価水準が高くなるという見方が前月より強くなり、反対に０に近づけば、米価水準が低い/米価水準が低くなるという見方が前月より強くなった傾向を示す。





③　取引関係者が①及び②の判断を行うに当たり、主に考慮した要因

	作柄	国内の在庫水準	国の政策	消費者の動向	競合商品の販売動向	その他
H23.5	3%	33%	12%	17%	7%	28%

2. 自社の取引状況に対する判断（業態毎）

①主食用米の販売数量

※　当月の数値が前月と比較し100に近づけば、「増えた」/「(将来)増える」 という見方が前月より強くなり、反対に０に近づけば、「減った」/「(将来)減る」 という見方が前月より強くなった傾向を示す。

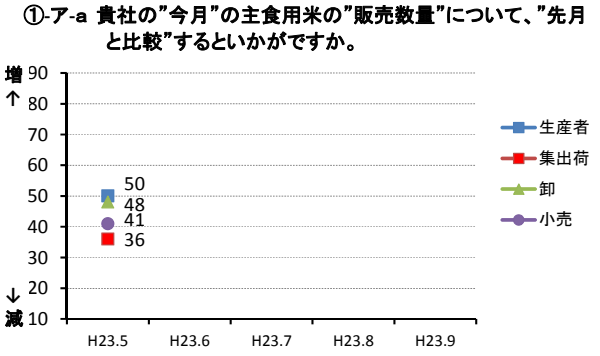
（ア）今月の販売数量に対する現状判断ＤＩ

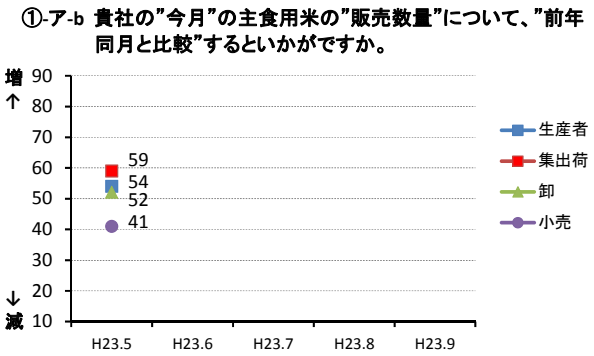
ａ．先月との比較

生産者：前月からの増減　数値なし　（今月の数値　５０）
集出荷：前月からの増減　数値なし　（今月の数値　３６）
卸　：前月からの増減　数値なし　（今月の数値　４８）
小売　：前月からの増減　数値なし　（今月の数値　４１）

ｂ．前年同月との比較

生産者：前月からの増減　数値なし　（今月の数値　５４）
集出荷：前月からの増減　数値なし　（今月の数値　５９）
卸　：前月からの増減　数値なし　（今月の数値　５２）
小売　：前月からの増減　数値なし　（今月の数値　４１）





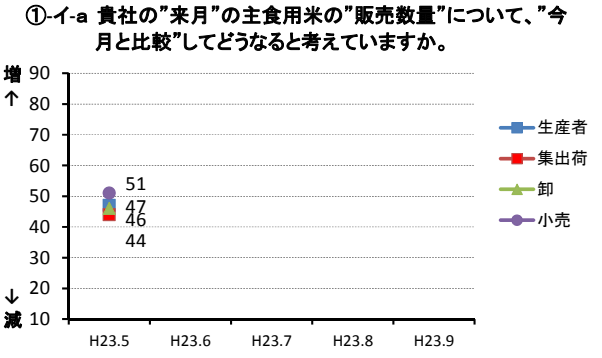
（イ）来月の販売数量に対する見通しＤＩ

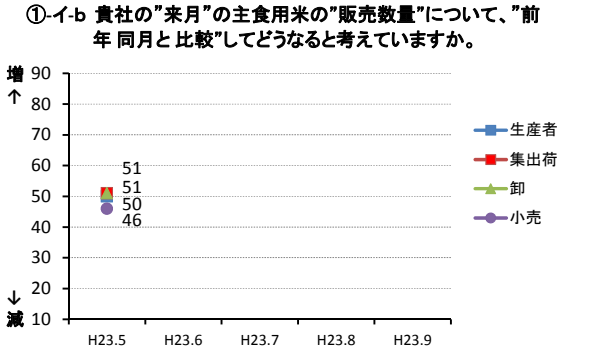
ａ．今月との比較

生産者：前月からの増減　数値なし　（今月の数値　４７）
集出荷：前月からの増減　数値なし　（今月の数値　４４）
卸　：前月からの増減　数値なし　（今月の数値　４６）
小売　：前月からの増減　数値なし　（今月の数値　５１）

ｂ．前年同月との比較

生産者：前月からの増減　数値なし　（今月の数値　５０）
集出荷：前月からの増減　数値なし　（今月の数値　５１）
卸　：前月からの増減　数値なし　（今月の数値　５１）
小売　：前月からの増減　数値なし　（今月の数値　４６）





②主食用米の販売価格

※　当月の数値が前月と比較し100に近づけば、「高くなった」/「(将来)高くなる」という見方が前月より強くなり、反対に０に近づけば、「低くなった」/「(将来)低くなる」という見方が前月より強くなった傾向を示す。

（ア）今月の販売価格に対する現状判断ＤＩ

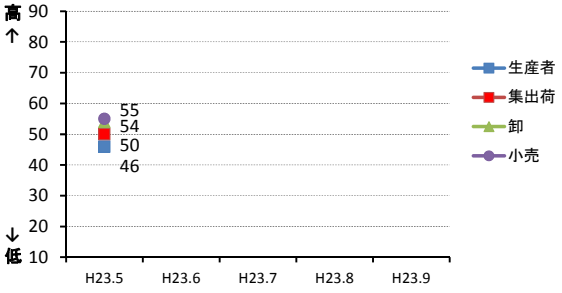
ａ.先月との比較

生産者：前月からの増減　数値なし　（今月の数値　４６）
集出荷：前月からの増減　数値なし　（今月の数値　５０）
卸　：前月からの増減　数値なし　（今月の数値　５４）
小売　：前月からの増減　数値なし　（今月の数値　５５）

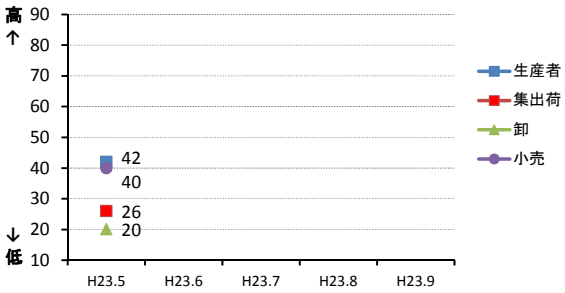
ｂ.前年同月との比較

生産者：前月からの増減　数値なし　（今月の数値　４２）
集出荷：前月からの増減　数値なし　（今月の数値　２６）
卸　：前月からの増減　数値なし　（今月の数値　２０）
小売　：前月からの増減　数値なし　（今月の数値　４０）

②-ア-a 貴社の"今月"の主食用米の"販売価格"について、"先月と比較"するといかがですか。



②-ア-b 貴社の"今月"の主食用米の"販売価格"について、"前年同月と比較"するといかがですか。



（イ）来月の販売価格に対する見通しＤＩ

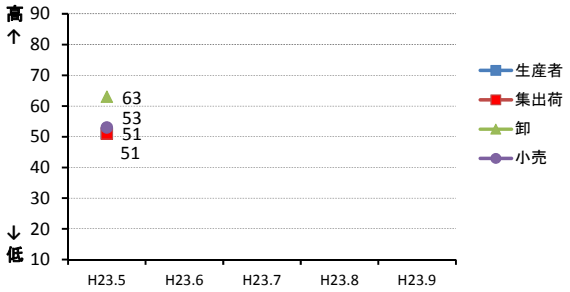
ａ.今月との比較

生産者：前月からの増減　数値なし　（今月の数値　５１）
集出荷：前月からの増減　数値なし　（今月の数値　５１）
卸　：前月からの増減　数値なし　（今月の数値　６３）
小売　：前月からの増減　数値なし　（今月の数値　５３）

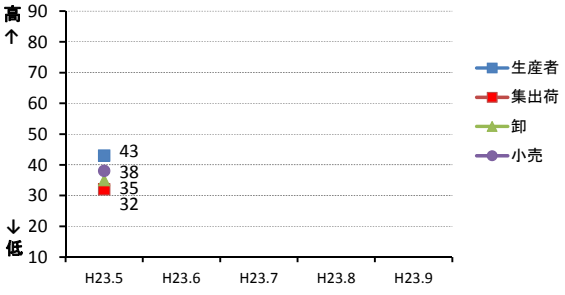
ｂ.前年同月との比較

生産者：前月からの増減　数値なし　（今月の数値　４３）
集出荷：前月からの増減　数値なし　（今月の数値　３２）
卸　：前月からの増減　数値なし　（今月の数値　３５）
小売　：前月からの増減　数値なし　（今月の数値　３８）

②-イ-a 貴社の"来月"の主食用米の"販売価格"について、"今月と比較"してどうなると考えていますか。



②-イ-b 貴社の"来月"の主食用米の"販売価格"について、"前年同月"と比較してどうなると考えていますか。



③主食用米の在庫量

※　当月の数値が前月と比較し100に近づけば、「多くなった」/「(将来) 多くなる」という見方が前月より強くなり、反対に０に近づけば、「少なくなった」/「(将来)少なくなる」という見方が前月より強くなった傾向を示す。

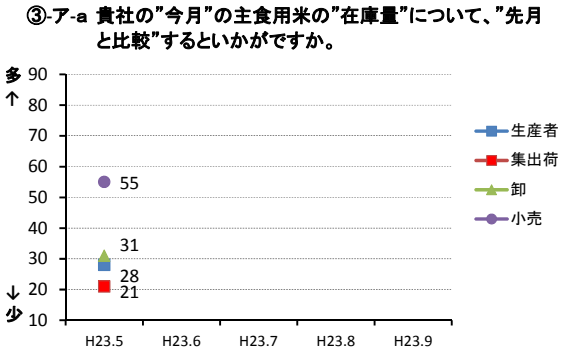
（ア）今月の在庫量に対する現状判断ＤＩ

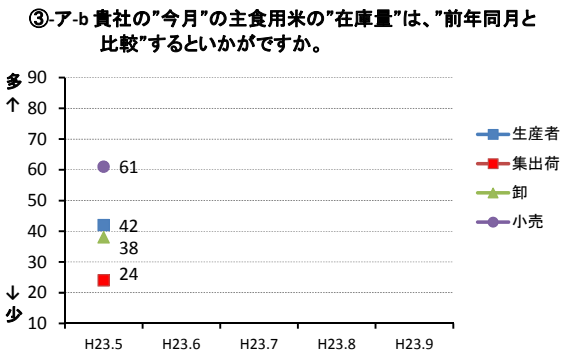
ａ. 先月との比較

生産者：前月からの増減　数値なし　（今月の数値　２８）
集出荷：前月からの増減　数値なし　（今月の数値　２１）
卸　：前月からの増減　数値なし　（今月の数値　３１）
小売　：前月からの増減　数値なし　（今月の数値　５５）

ｂ. 前年同月との比較

生産者：前月からの増減　数値なし　（今月の数値　４２）
集出荷：前月からの増減　数値なし　（今月の数値　２４）
卸　：前月からの増減　数値なし　（今月の数値　３８）
小売　：前月からの増減　数値なし　（今月の数値　６１）





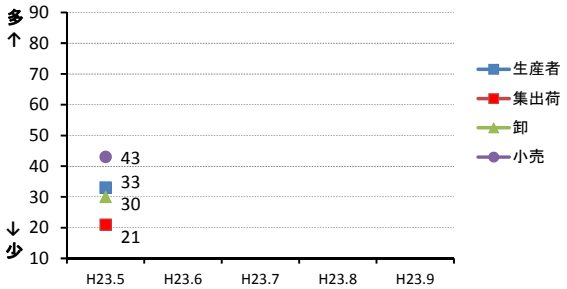
（イ）来月の在庫量に対する見通しＤＩ

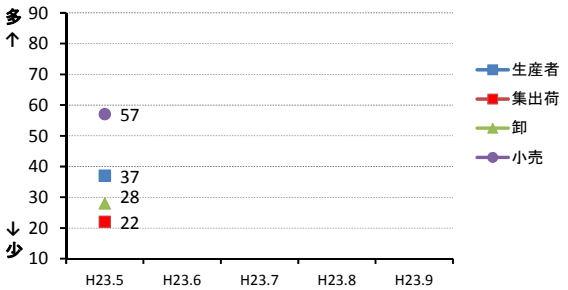
ａ. 今月との比較

生産者：前月からの増減　数値なし　（今月の数値　３３）
集出荷：前月からの増減　数値なし　（今月の数値　２１）
卸　：前月からの増減　数値なし　（今月の数値　３０）
小売　：前月からの増減　数値なし　（今月の数値　４３）

ｂ. 前年同月との比較

生産者：前月からの増減　数値なし　（今月の数値　３７）
集出荷：前月からの増減　数値なし　（今月の数値　２２）
卸　：前月からの増減　数値なし　（今月の数値　２８）
小売　：前月からの増減　数値なし　（今月の数値　５７）





《アンケート方法等》

〇期間：５月１日から２５日までの取引状況を踏まえて回答

〇方法：インターネットを経由したオンライン上で回答

〇アンケート対象者：生産者、集出荷業者、卸・小売業者等の１２０客体

〇有効回答数：全体で１０５客体

生産者・・・・・・・・・・・・・１９
集出荷業者／団体・・・・・・・２０
卸売業者（主に主食用米）・・・２６
小売業者・・・・・・・・・・・・１９
その他・・・・・・・・・・・・・２１

※「その他」は以下の業者を示している。
・米穀の販売の事業を行う者のうち、主に加工原材料の卸売の事業を行う者
・加工原材料米穀を使用し、加工食品（酒類を含む）を製造・販売する者

《利用上の注意》

〇　本アンケート調査は新規に行うもので、当面の間試行的に実施するものであり、今後必要に応じて変更することもありうる。

〇　表示単位未満の端数は四捨五入した。したがって、計と内訳は一致しないことがある。

《ＤＩの算出方法》

米の需給動向・価格水準などに関する現状、または先行きに対する５段階の判断（評価）にそれぞれ点数（評価点）を与え、これらを各回答区分の構成比（%）に乗じてＤＩを算出。

ただし、ＤＩの推移は、変化の方向性を示すものであり、その変化の大きさ（量感）を表すものではない。例えば、大幅であろうが小幅であろうが、上昇するといった見方をする者の構成比が同じであれば、同じＤＩが観測されることに注意が必要である。

（ＤＩの算出例）

問：国内の主食用米の“向こう３ヶ月の米価水準”について、“現時点と比較”してどうなると考えていますか。

	高くなる	やや高くなる	同程度	やや低くなる	低くなる
評価点（A）	＋1	＋0．75	＋0．5	＋0．25	0
構成比（B）	17．8	20．0	20．0	22．2	20．0
各DI（C＝A×B）	17．8	15	10	5．6	0
DI（合計）	48．4				